

平成 30 年 9 月 24 日

## (公社) 日本鍼灸師会 平成 30 年度中部ブロック会議報告

一般社団法人 愛知県鍼灸師会 女性部 部長  
石井美恵子

2018 年 9 月 16 日 (日) ~17 (月・祝) に山梨県笛吹市の石和名湯館「糸柳」にて、(公社) 日本鍼灸師会 平成 30 年度中部ブロック会議が開かれました。

中部ブロックとして愛知・長野・岐阜・静岡・山梨の 5 県で行うのは今年が最後となりました。厚生局の管轄の変更により、来年度からは長野・山梨が関東信越ブロックに移行し、中部ブロックには新たに三重、富山、石川が参入することになりました。

会議の初めに (公社) 日本鍼灸師会 会長 仲野弥和先生より世界に向けた日鍼会の活動状況についてお話しがありました。その中で、ベトナムでは日本の細い鍼での治療に人気が出ているとの事、またキューバでも日本の鍼灸が要請された、との報告がありました。その他、鍼灸免許保有者証については、希望者だけでなく全会員に保有してもらい、その中に研修の履歴を残す方向で検討しているとの事でした。研修履歴を見ればその治療院の先生が何を得意としているのか、どのような分野の勉強をしてきたのかが分かり、一般の人からも治療院が選びやすくなるのではと説明されていました。現在、国民や医療関係者から、「どの治療院にかかればいいのかわからない。わかるようにしてほしい。」という要望が増えているとの事でした。それならば研修履歴が分かるようにすれば、もう少し鍼灸を利用しようという人が増えるのではないかとともにしゃってみえました。特に強調されていた事は、鍼灸を国民に認めてもらう為にはどうしたらよいかということでした。その為が一番大切な事は鍼灸師の質の向上で、医師と連携が取れて、医師から信頼される鍼灸師を増やしていかなければならない。知識や技術の向上、社会への参画活動、県師会による講演などを積極的に開催するべきだという内容でした。

中村ブロック長は日鍼会の会員が以前は 6000 人いたのに、現在は 4000 人位に減少しており、10 年後、50 年後、100 年後にどのように鍼灸を残していくべきかを今考えなければならない、とお話しされました。全国の県師会が会員減少している中、今回参加地区の中で唯一、会員数が増えている長野県について、長野県針灸師会 会長 安田政寛先生にどうされているのかを発表していただきました。長野県では、昨年は会員数が 132 名から 180 名程に増えたとの報告がされました。学校法の改正によりとのことでしたが、いくつか工夫もされているようでした。まずは専門学校などの講師と協力して繋がりを持ち、会の広報に力を入れた事。研修会も積極的に開催し、知識の向上を図り医師への信頼づくりをした事により、現在では、長野県針灸師会が医療団体として認められるようになったとの事でした。また、若い人を育てるということで青年部を作り、青年部には特別の予算を投入したそうです。若い人同士の勉強会も積極的に行っているとのことでした。

鍼灸師の免許は取ったものの、治療となると躊躇してしまう新人の研修、勉強会は会に所属してこそ得られるメリットだと感じました。

今回の会議は 4 月に理事となり初めての他県との合同会議であり、緊張しました。会議に参加する前は愛知県の内容ですらよく理解出来ていない自分にとって日鍼会は相当遠い存在だと考えていました。会報で日鍼会の研修会が開催されても参加しづらいと感じていましたし、知らない人ばかりではと躊躇している点もありました。しかしながら会議に参加させて頂いて各地方との繋がり的重要性、地方と中央



の役割の違いなどを知る事が出来ました。また、女性部としての活動のヒントとなるような情報交換が他地区の鍼灸師会と出来、とても有益でした。他県での取組みを参考にさせて頂き、女性部の今後の活動に活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。



(宝石庭園 信玄の里にて)